

### ボーリング柱状図

調査名

事業・工事名

ボーリングNO.										
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

シートNO.

ボーリング名	B-3		調査位置				北緯	36° 27' 8.4500"					
発注機関	栃木県 真岡土木事務所				調査期間	2008-07-23 ~ 2008-07-24		東経	140° 08' 19.4700"				
調査業者名				主任技師	現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者						
孔口標高	163.73 m	角度			方		地盤勾配	鉛直	0°	使用機種	試験機	ハンマー 落下用具	
総掘進長	9.00 m	度			向			水平	0°	エンジン	ポンプ		

標尺	層高	厚度	深	柱状図	土質区分	色	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 試験名 および結果	試料採取 深度 試験番号	室内試験 採取方法	掘進 月日						
												10cmごとの 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 (cm)	0	10	20	10					20	30				
					表土(SF) 風化岩(WR)	暗茶灰			軟質な火山灰土から成る崩積土である。 砂岩の強風化部である。 風化・変質が岩体内部にまで及んでおり、原岩組織を全く殆ど残さない。 コアは固結した砂質粘土状で採取され、クラックは認識できない。 GL-2.0m以深、固結度合いを高める。			1.15	7	9	10	26	30	26									
					砂岩(S)	暗褐灰			土砂用ビット(メタルクラウン刃先)により掘進可能。 GL-3.35m付近まで、コアは角礫状-塊状粘土状を呈す。 以深、3-5cmの短棒状-片状コアを主体に採取されるが、岩塊硬度は比較的低い区分にラックされる。 亀裂はコアバック解放後に分離したもので、開口性亀裂は認められない。			2.15	15	25	10	50	23	>50									
					風化岩(WR)	暗茶灰			GL-4.95m付近、遡水を認める。 砂岩が強風化・強変質を受け、土砂化した部分であり、岩性は殆ど有していない。コアは固結砂状の砂岩片を稀に含む塊状粘土状で採取される。			3.00	50		50		>50										
					砂岩(S)	暗褐灰			岩塊硬度は比較的low、メタルクラウンビットで試験可。 コアは斜状を主体とする細かい層理の多発により礫状-3cm内外の短棒状で採取される。又、層理の集中部では層理面に沿う粘土化を伴い、コアは粘土混り砂礫状を呈す。 GL-7.65-7.9m間は頁岩粒子を優勢し、石炭分の細脈を挟在する。 GL-8.8m以深、概ね新鮮な感じを受ける。			4.00	50	9	50	9	>50										
					風化岩(WR)	暗茶灰						5.15	6	9	15	30	30	30									
					砂岩(S)	暗褐灰						5.45			50	10	>50										
												6.00	50				>50							07/23			
												6.10			50	6	>50										
												7.00	50	7	50	7	>50										
												7.06					>50										
												8.00	50	0	50	0	>50										
												8.07					>50										
												8.00	50	0	50	0	>50										
												9.00					>50										